

社外技術表彰

「第55回十大新製品賞 モノづくり賞」を受賞

2013年1月24日，“iQ Platform対応C言語コントローラハイエンドモデル（Q24DHCCPU-V）”が日刊工業新聞社から“第55回十大新製品賞 モノづくり賞”を受賞した。現在、生産現場ではIT技術を活用した制御と情報の両処理が急速に普及・発展している。この製品は、2つのマイクロプロセッサ（制御用、ユーザープログラム情報処理用）を搭載したことで処理全体のタクトタイム短縮を実現し、産業分野における高信頼の装置／システム構築を

可能とする産業用コントローラである。パートナー製品と連携したソリューション拡張を容易に実現するプラットフォームとしても活用可能であり、優れたモノづくりが期待できる製品として高く評価された。



「第45回市村産業賞 功績賞」を受賞

“循環型社会を創生する家電プラスチックの高度選別回収・再生技術”が“第45回市村産業賞 功績賞”を受賞した。

比重差や摩擦帯電等の物理特性を利用した機械選別プラントを構築し、主要な3種類のプラスチック（PP（PolyPropylene）、PS（PolyStyrene）、ABS（Acrylonitrile Butadiene Styrene））の高純度大量回収を実現した。さらに、X線分析選別による環境適合性の確保、経年劣化等に対する改質技術を確立し、冷蔵庫やエアコンへの

再利用を実践している。回収量拡大と水平リサイクルの実践による循環型社会構築への貢献が評価された。



「第11回産学官連携功労者表彰 内閣総理大臣賞」を受賞

“100ギガビット級超高速光伝送システム技術の研究推進及び成果展開”によって、日本電気、富士通、三菱電機、東京大学菊池和朗教授が受賞した。東京大学が発明した“デジタルコヒーレント”と呼ばれる新しい光通信方式をもとに、受賞3社とNTT研究所の技術を総務省のプロジェクトで結集し、NTT研究所のリーダーシップのもと世界に先駆けて100ギガビット光伝送用信号処理LSIを開発した。また、この技術の成果展開の一つとして当社の光海底ケーブル事業が紹介され、グローバル展開に寄与した点が評価された。



「NASA Headquarter長官賞」を受賞

NASA（National Aeronautics and Space Administration）地球観測衛星Aqua搭載の改良型高性能マイクロ波放射計（AMSR-E）は、2011年10月に回転駆動機構の機能劣化によって、ミッション寿命の3年をはるかに超える約9年半の運用を停止したが、運用中の観測データは世界各国の多くのユーザーによって気象予測などに活用されてきた。後継機のAMSR2観測データとの相互校正を主目的とし、かつAMSR-Eを運用するNASAからの強い要望によって再起動の計画が進められた。他の多くの

センサを搭載する衛星へ影響を与えないよう約1年間の検討、試行運用を繰り返した後、2012年12月に2rpm低速回転（定常観測は40rpm）での観測運用を再開した。その後も順調な運用を継続しており、NASAからも高く評価された。

